

- 1 年迎ふ空港待合室にゐて
- 2 新年の一句箸袋に記す
- 3 宝くじなど買うてみる二日かな
- 4 愛してると云へるロボット春の昼
- 5 うららかや研究棟の屋上は
- 6 永き日や振り返らずに去る人と
- 7 春風の運ぶピアノの音色かな
- 8 哲学を愛す蜃気楼を愛す
- 9 薄氷のやうな心を持つ君は
- 10 進学の後輩に書を譲りけり
- 11 占ひに従つて選る春日傘
- 12 風船を貰へぬ歳となりにけり
- 13 日蔭から日向へ飛ばすしやぼん玉
- 14 シーソーは傾くふらここは揺るる
- 15 時差ぼけと区別つかざる春の風邪
- 16 猫の子や疑ふといふ眼をもたず
- 17 研究棟少し離れて蛙鳴く
- 18 見えてゐるだけで八つの巣箱かな
- 19 散る花に鋭き光ありにけり
- 20 蒲公英や昔大きく見えしもの
- 21 読み了へてより読み返す夏夕
- 22 明易き本の返却ポストかな
- 23 大通り交はつてゐる暑さかな
- 24 新校舎建設予定地の涼し
- 25 ノート三ページ余して夏終る
- 26 働きに行く日曜の風薫る
- 27 朝虹の結婚式となりけり
- 28 称讃か罵倒か夜の雷は
- 29 対向の列車待ちゐる夕焼かな
- 30 西日濃く及べり選手控室
- 31 スカートを汚して帰る子供の日
- 32 時の日の一号館の時計かな
- 33 スニーカー買つてはじまる夏休
- 34 十五点集めてアロハシャツ貰ふ
- 35 白きワンピースに白き夏帽子
- 36 ラムネ抜くやうに解決できたなら
- 37 キリン観てカバ観て氷菓子食べて
- 38 白玉の凹み結婚適齢期
- 39 香水を使ひ切りたる淋しさよ
- 40 風鈴の風に凭れてゐたき日も
- 41 その先は言はずに日傘たたみけり
- 42 発禁とある文献を曝しけり
- 43 一日を終へたるプールサイドかな
- 44 手花火を忍ばせてある旅鞆
- 45 持つてゐることの愉しき捕虫網
- 46 又しても素直になれず髪洗ふ
- 47 心ゆくまで昼寝してしまひけり
- 48 未完とは永遠太宰治の忌
- 49 金魚より不自由かなと思ふとき
- 50 螢火や知恵も知識も持たぬ頃

- 75 学生食堂の鯛の煮付かな
- 74 空つぽの引出しにある秋思かな
- 73 先生を見送りに行く秋日傘
- 72 燈火親しめり手紙を書き終へて
- 71 名前なき小川の水も澄みにけり
- 70 ふるさとも秋雨といふ母の声
- 69 流星のごとき十代二十代
- 68 良夜かな明日着る服を吊り下げて
- 67 花束を提げて終着駅の月
- 66 噴煙の形整ふ秋日和
- 65 深秋や校塔の影くつきりと
- 64 そぞろ寒匿名希望の投稿も
- 63 身に入むや美とは愛とは真とは
- 62 秋麗久方ぶりにピアノ弾く
- 61 涼新た郵便受けに手を入れて
- 60 門潜りけり秋めくと思ひつつ
- 59 夏草や大人になりきれずにゐる
- 58 完熟のトマトと半熟の卵
- 57 考へ直して緑陰を出でにけり
- 56 一對の一對一のさくらんぼ
- 55 同僚は男ばかりや額の花
- 54 図書館につづく泰山木の花
- 53 薔薇の名よカクテルの名よ船の名よ
- 52 水馬は潜れぬ人間は飛べぬ
- 51 天道虫切り取り線の点々這ふ
- 76 鉛筆と赤鉛筆と赤蜻蛉
- 77 虫の夜の本の旧仮名遣ひかな
- 78 団栗を添へて用件のみ記す
- 79 コスモスに来てやはらかき風となる
- 80 書き出しの言葉に迷ふ女郎花
- 81 先生の優しさに似る吾亦紅
- 82 整理整頓の四文字に冬ぬくし
- 83 年の夜や定位置に置く愛読書
- 84 寒さ増しゆくトンネルを抜けるたび
- 85 書店から次の書店へ日脚伸ぶ
- 86 曇るるや好きが嫌ひに変はるとき
- 87 狐火やまた回り道してしまふ
- 88 自転車を磨く勤労感謝の日
- 89 円卓を一人で使ふ事始
- 90 着ぶくれて自由に描く宇宙人
- 91 裏返りたるセーターの忘れ物
- 92 冬帽の未だ苗字を知らぬ人
- 93 姉のマフラーも水玉模様かな
- 94 図書館の机の数の冬灯
- 95 テーブルを炬燵に替へしだけのこと
- 96 昨年と同じ売場の日記買ふ
- 97 湖に向かつてみんな日向ぼこ
- 98 クリスマスただ集まつてゐるだけの
- 99 凍蝶に心読まれてしまひけり
- 100 銀杏落葉や新館も旧館も